

3 ビジョンの基本コンセプトと 7つのビジョンプロジェクト

那須塩原駅周辺の現状や課題、報告書の中で示された方向性、市民懇談会における検討やアンケート調査の結果などを踏まえ、ビジョンの基本コンセプトを次のとおり定めます。

〈基本コンセプト〉

住む人・来る人が共に拓き、育む栃木県北の拠点

このコンセプトの言葉には、次のような願いや想い、意味を込めました。

- I <住む人・来る人が共に>
「今、那須塩原市に住んでいる人も、観光や仕事など何かをきっかけに那須塩原駅に降り立った人も、それぞれの立場や視点から一緒に那須塩原駅周辺のまちづくりに取り組んでいこう。」という願いや想いを込めました。
- II <拓く>
那須塩原の大切な歴史である「開拓」の一文字であり、「新しく何かを始める・何かが始まる」という意味、那須塩原らしさを込めました。
- III <育む>
(まちが)「成長していく」(まちを)「受け継いでいく」という意味を込めました。

そして、このコンセプトの実現に向け7つのビジョンプロジェクトを掲げてまいります。

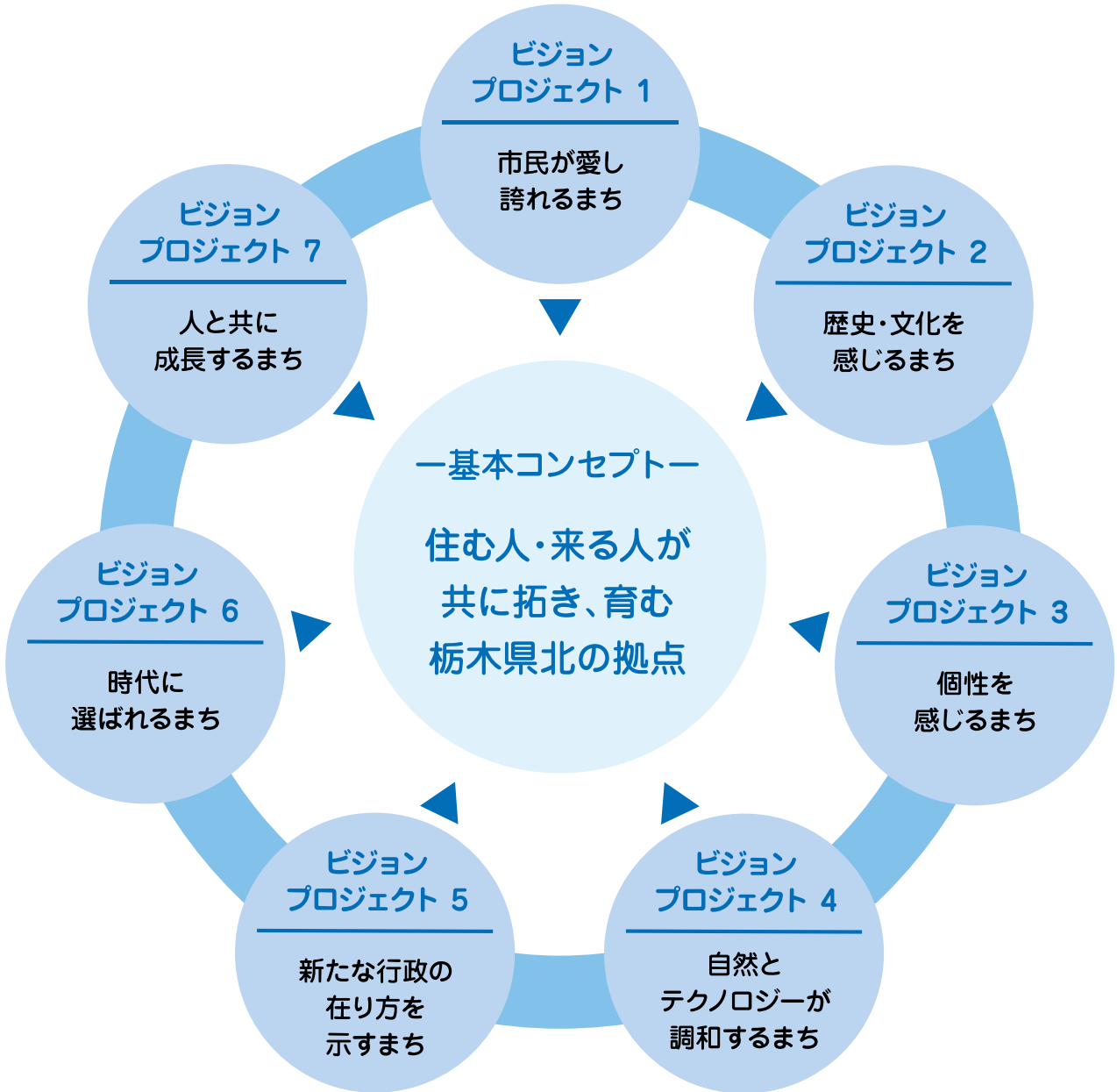
ビジョンプロジェクト1から6については、報告書において有識者からの提言として「外」からの視点で見出していただいた、これからの那須塩原駅周辺のまちづくりに必要な要素や考え方に、市民懇談会、市民アンケートやグループインタビューといった、これまで重ねてきた市民参画のプロセスを通じ、沢山の市民の皆様から頂いた「内」から見たときのまちづくりに対する夢や想いを加えて30年後の未来を描い

ていきます。

また、ビジョンプロジェクト7は、こうした市民参画のプロセスそのものを、これからの那須塩原駅周辺のまちづくりに必要な要素として、コンセプト実現に必要なプロジェクトの一つとして掲げることといたしました。

この基本コンセプトと7つのビジョンプロジェクトにより、30年後の未来のイメージを明らかにしていきます。

基本コンセプト及び ビジョンプロジェクト構成図



プロジェクト① 市民が愛し誇れるまち



プロジェクトの目的

市民にとっても、那須塩原市を訪れた方にとっても、愛着が生まれ、「このまちに住んでみたい」「このまちに住み続けたい」と心から思える、次の世代に自信をもって残していける満足度の高いまちをつくる。

プロジェクトの施策の方向

都市環境の充実

移住・定住施策の強化

那須塩原市・栃木県北の 玄関口としてのブランド化

プロジェクトで描く 30年後の 未来のイメージ

駅周辺の
住民が増える。

駅周辺を
目的地として
訪れる人も
増える。

那須塩原駅
周辺に
商業施設が
増える。

駅利用者の
回遊性が
高まる。

人々が、
日々の生活の中に
「活気や賑わい」を
感じる。

「安全や安心」
「癒しや安らぎ」
といった「暮らしやすさ」
「住み心地の良さ」を
感じる環境が
整備されている。

環境が整備される
ことにより、地域に対する
「愛着」や「誇り」が
より一層育まれる。

住民自ら
「まちへの愛着」
「まちの誇り」等
エリアに関する情報を
発信している。

那須塩原駅周辺の
対外的な認知度
(魅力度)のアップ、
那須塩原駅周辺を中心とした
移住・定住者の増加に
もつながっている。

ほかの人に
自慢したくなるような
まちになっている。

プロジェクトへの提言やアイデア

上質な高原リゾート、東京からのアクセス等の魅力は軽井沢と同様のポテンシャル！
駅を拠点に魅力を更に高め、認知度を上げていく余地は十分にある。

市のみならず、那須野が原、栃木県北地域全体の玄関口として、その地域を象徴するような駅を目指すべき。

まちづくりには地域への愛着が大切。

有識者会議からの提言

駅を中心とした市民の巻き込みと外部からの人の呼び込みが重要。

観光客のみならず地域の人々も那須全体を楽しめる拠点である必要がある。

まちづくりのイメージの可視化とまちづくりに対する市民の内発性の喚起が必要。

まちの賑わいは駅周辺を中心に作り上げるのが良い。

アンケート調査等からの意見

今ある自然や、安心安全は維持しつつ、移動（公共交通機関）や仕事が充実した住みやすいまちが良い。



どの年代にも親しみや情が湧くような場所であり、かつ気軽に買い物などができるような、駅周辺だけでも満足できる時間を作ることができるような場所になったら良い。

まずは住民が住んでいて行きたいお店やつろげる場所があり、自然と人が集まるようになって欲しい。地元住民が住みやすい場所になって欲しい。そうすれば移住者の増加や観光客も足を止めてくれる場所となると思う。

市民参加の花壇を作り、季節の花などを植えてゴミなど捨てることをためらうような、きれいな通りにしたらと思います。

活気があって、でも安心して安全で県外から来た人も周辺に住んでる人もまた来たいなと思える場所だといいな。



みるひいクイズ 1



那須塩原駅から東京駅までの新幹線の乗車時間は何分？

- ①40分 ②60分 ③80分

ヒント：ちなみに車だと高速道路を使うとおよそ2時間だよ。

プロジェクト② 歴史・文化を感じるまち



プロジェクトの目的

開拓の歴史とそこに生まれた文化遺産を地域活性化のための貴重な地域資源として有効に活用するとともに、これまで受け継がれてきた歴史・文化に触れることにより、市民の心情面における一体感がより醸成されるまちをつくる。

プロジェクトの施策の方向

歴史や文化の継承(担い手づくり)

歴史・文化の共有に向けた教育、 イベントの開催

文化財の積極的な活用

市民を中心に歴史や文化を活用したイベントの開催。

駅を出発点として、文化財を巡る周遊交通機関の整備。

SNS等を通じて対外的にも那須塩原市の歴史や文化が広くPRされている。

市民の歴史や文化に対する関心や理解が深まる。

那須塩原市や那須野が原の開拓・発展の歴史、伝統や文化が担い手によりしっかり継承されている。

観光客だけでなく市民も歴史や文化が、日々の暮らしの中に「感じる」ことができる。

那須塩原市や那須野が原の開拓・発展の歴史、伝統や文化、それらを今に伝える地域に散りばめられた文化財などを誰でも日常的に「学ぶ」「知る」ことができる環境。

プロジェクトで描く 30年後の 未来のイメージ



プロジェクトへの提言やアイデア

大切に語り継がれる
那須野が原の
開拓の歴史は、
まさに地域の
アイデンティティ

有識者会議
からの提言

市町村合併の
背景も踏まえ、
開拓の歴史などを
テーマとしたイベント
を駅周辺で開催しては？

皇族が利用する駅を
有するエリアとして、まちなみには
それにふさわしい
風格も必要。

日本遺産にも
認定された
この歴史を
まちづくりに積極的に
活かしていく必要がある。

アンケート 調査等からの 意見

歴史や文化のイメージが
もっとあるといいなと思
います。

歴史や地域の特色を生か
し、大都市には真似のでき
ない、特にソフト面でのき
め細やかな居心地の良さ
を追求して頂きたいと思
います。

皇室が訪れる玄関口でもあ
るので、品格のある景観で
あって欲しい。皇室だけで
なく有名な著名人も利用さ
れている事が有ると思いま
すので、県北の良さが感じ
られるエリアであると情報
発信(県外の方々にPR)。

物産展を含め、飲食店、カ
フェ、ショッピングアーケ
ードなど、駅を利用する人だ
けでなく地域の人たちも
“行ってみたい”があるまち
づくり。子供達に歴史博物
館(那須にちなんだもの)が
あっても面白いではないか
と思います。

みるひい クイズ2

旧青木家那須別邸はどこの国の
特徴が見られるでしょう？

- ①アメリカ ②イギリス ③ドイツ

ヒント:青木周蔵の妻エリザベートはドイツ貴族の
令嬢です。

プロジェクト③ 個性を感じるまち



プロジェクトの目的

那須塩原駅から見える那須連山の眺望、星が輝く澄んだ夜空等を通じて、那須塩原市や那須地域が持つ特有の魅力を感じることができるとともに、「観光」等の拠点として那須地域全体、栃木県北全体の魅力も感じることができるまちをつくる。

プロジェクトの施策の方向

那須塩原市の魅力の再確認と付加価値

景観の維持・保全及び積極的な活用

二次交通網の充実・強化

プロジェクトで描く 30年後の 未来のイメージ

駅前には那須塩原市や
那須エリアの
観光地、特産物等を
インフォメーションする
施設等の整備。

駅を降りた瞬間から
「那須塩原らしさ」
「那須らしさ」を
感じられる空間に。

那須塩原駅を降りると、
本市の「らしさ」を
イメージさせる
モニュメント(人工物)を
設置。

那須連山の山並み、
星が瞬く澄んだ夜空等の
風景(自然物)が
訪れた人を出迎える。



プロジェクトへの提言やアイデア

有識者会議
からの提言

駅を降りた後に広がる
素晴らしい
スカイラインと
那須連山の景観
をもっと活かすべき。

テクノロジーの進歩等による
新たな交通環境
の展開を想定し、
鉄道利用者の拡充を
図ることが必要。

豊かな自然の中に庁舎が
顔を覗かせる駅前
の在り方も良いのではないかと。

インバウンドの
少なさが
観光面における
課題の一つ。

市内の主要観光地を
上手く周遊するための
二次交通の充実が重要。
市内にとどまらず
那須地域全体の観光の
活性化にもつながる。

駅前全体に大掛かりな
施設が必要というわけではなく、
地域全体のことが
分かる地域の魅力を
凝縮した様々な
要素が集まった
パッチワーク型の施設
があれば、駅前の雰囲気
を変えることができる。

自然の景観は
もちろん、
街並みの景観も
重要であり、
そのための
コントロールも重要。

アンケート 調査等からの 意見

自然の豊かさは、那須塩原市の魅力なので、それを残しつつ、人の集まる施設もあると良い。

那須の特性を持つ県北観光の拠点にふさわしく、地元民も含め観光客が駅前周辺を快適に散策、滞留しやすい魅力的な街づくり、環境作りが重要。

那須塩原駅前に那須のシンボルとしてふさわしい像等を建てて、那須をもっとアピールし観光客を呼び込めば、今まで以上に活気が出て経済も発展すると思います。

大都市の真似事をして、追いつくわけではなく意味がない。利便性(新幹線)+景観(自然を生かした、おしゃれな街並み)+人との交流を軸に、新しい発展の形を構築できると良い。



みるひい クイズ3



那須塩原市の文化財の件数は?

- ①17件 ②78件 ③178件

ヒント: 建造物、絵画、彫刻、天然記念物などたくさんあります。

プロジェクト ④ 自然とテクノロジーが調和するまち

プロジェクトの目的

自然とテクノロジーが調和し、先端技術を活用した新たな働き方・多様なライフスタイルが実践されるとともに、ひと本来の生活に必要な「癒し」が得られるまちをつくる。



プロジェクトの施策の方向

デジタル環境の整備・充実

サテライトオフィス・ワーケーションに係る施策の充実

観光施策との連携

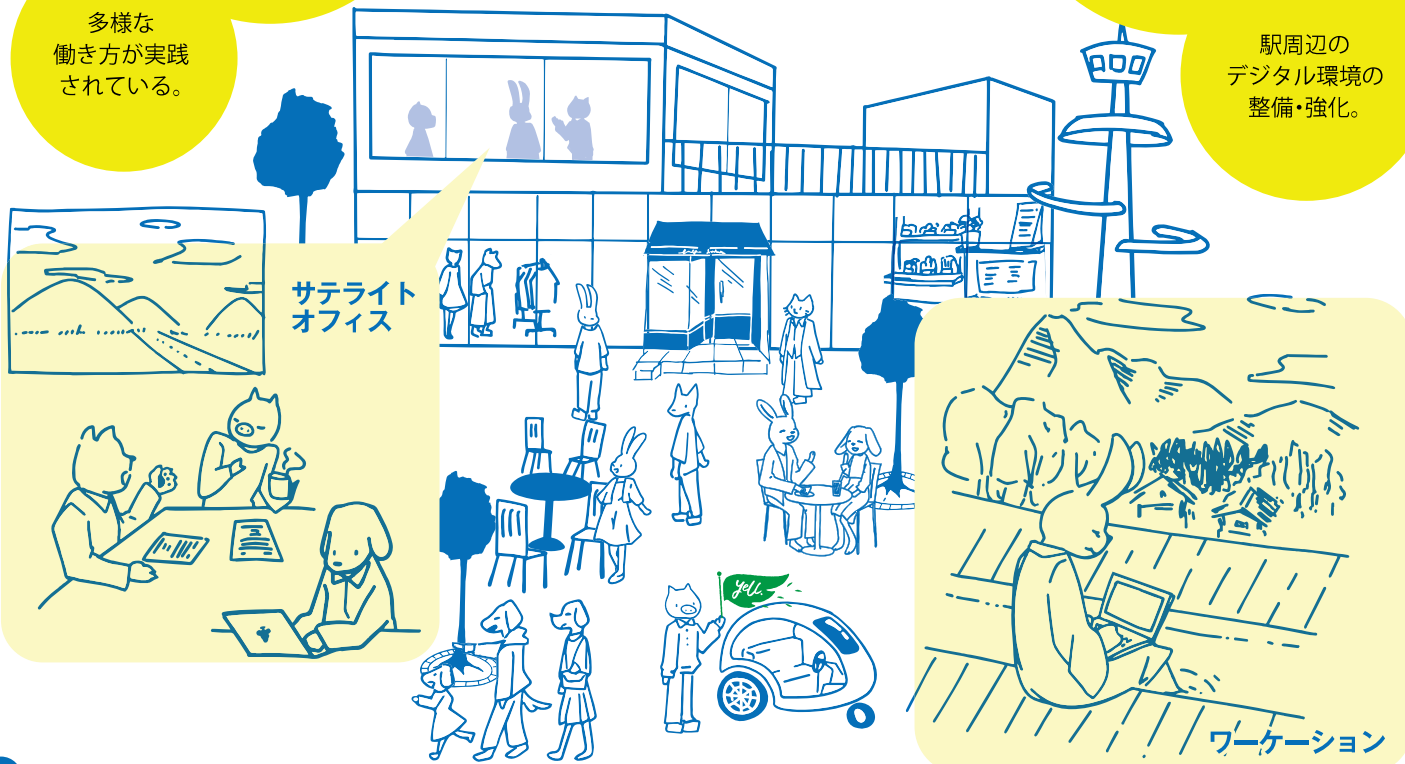
プロジェクトで描く 30年後の 未来のイメージ

東京圏に
本社を構える企業の
サテライトオフィス等が
駅周辺に定着している。

東京などへの
アクセスの
優位性が広く認知
される。

多様な
働き方が実践
されている。

駅周辺の
デジタル環境の
整備・強化。



プロジェクトへの提言やアイデア

テクノロジーと
自然(癒し)の相乗効果
により那須塩原のブランド力を
高める。

世界のデジタル革命先進地が
豊かな自然を背景に
食や農につながる環境
にあるという実態は、
那須塩原市の
ポテンシャルに通じる
ものがある。

デジタルを活用し、
魅力をより
広範囲に届け、
その効果を計測して機能させる
サイクルが大切。

先端技術の
積極的な活用を図り、
多くの人々が集まる
機会やきっかけを生み出し、
まちそのものに活気を与える。

テクノロジーの追及は
人間にとって
ストレスの問題
にもつながる。

ターゲットを明確にし、
ここに住みたい
と思ってくれる
人々を増やす事が、
今後の更なる持続的な
発展につながる。

有識者会議
からの提言

東京圏までのアクセスの
良さを活かし、
ワーケーション
(ワーク×バケーション)等
多様な働き方を実現する
スマートタウンの拠点
としての整備なども考えられる。

アンケート 調査等からの 意見

自然とテクノロジーが融合
したまちづくりを行って下
さい。

昨今のリモートワーク等の
推進・一極集中見直しの流
れの中で、少し足を延ばせ
ば山があり大都会への距離
も程良いこの地域は、人が
働き生活する基盤となれる
土地だと思う。

分都やワーケーションをコ
ンセプトに計画されると良
いと思う。現在、自然豊かな
環境があり、それを充分活
用できると思う。その玄関
口としてのまちづくりが必
要と考える。

新型コロナウイルス感染症に
よって生活や仕事のスタイル
が一変してしまいました。この
変化に取り残されることなく、
サテライトオフィス、ワーケ
ションなどを意識したまちづ
くり企画や急速に脚光を浴び
ているデジタル関連企業の
積極的な誘致など安定した
経済基盤の構築についても
まちづくりビジョンに反映し
て欲しい。



みるひい クイズ4

塩原温泉は「温泉の宝石箱」と
呼ばれています。
さて、何色の温泉がある？

- ①5色 ②6色 ③7色

ヒント：虹みたい！

プロジェクト⑤ 新たな行政の在り方を示すまち

プロジェクトの目的

新たな時代に相応しい行政機能を有し、公共サービスの効率性や利便性の向上、災害対応力の強化を図るとともに、那須塩原市、栃木県北の玄関口としての象徴・ランドマークとして、人と人とのつながりを創り、そこから新たな価値や魅力が生まれるまちをつくる。



プロジェクトの施策の方向

新庁舎及び駅前空間の整備

新庁舎周辺の道路網・インフラ環境の整備

民間活力の導入

プロジェクトで描く 30年後の 未来のイメージ

庁舎を核として、
周辺エリアの道路網等の
インフラストラクチャーの
整備等、駅周辺の
まちづくりが進む。

新たな庁舎は、
「デジタル化の推進」
「新たなリスク管理」等、
時代の潮流を見据えた
機能を備える。

那須塩原駅周辺に
おける人々の回遊性も
高まり、駅周辺における
新たな人の動きが
生まれる。

更なる「賑わい」や
「魅力」の創出、人や事業者
の流入、土地利用の高度化
等、まち(エリア)全体の活
性化が図られている。

市内外からの
アクセス性の向上、
駅周辺への
店舗等の増加。



本市の
ランドマーク施設としての
「那須塩原市らしさ」や
県北の玄関口に構える
庁舎として「那須エリア」を
感じる事ができる
空間を有している。

庁舎そのものの
利用価値・存在意義が高まり、
市民にとっての
アイデンティティを備えた、
シンボリックな建物として、
行政手続きだけでなく
様々な利用目的で市民が訪れる
場所となっている。



プロジェクトへの提言やアイデア

有識者会議からの提言

新庁舎は
環境に配慮したオフィス

として率先して先端技術を活用し、
駅周辺のまちづくりにおける、

**景観形成において
先導的な役割**

を果たすことが期待される。

庁舎の機能は、
行政手続の将来
予測を踏まえ、
長期的な視点で
検討する必要がある。

庁舎の建物の在り方も、
時代の様々な変化に対応できるよう、

**柔軟性を持った、
フレキシブルな
デザイン**

であっても良いのではないかな。

市役所は市民が
集まる場所であり、
**コミュニティ
形成の強化**に
資する機能も必要。

庁舎は市の象徴

文化・歴史やアイデンティティを
感じられるような
ものであるべき。

官民連携(PPP)では、
**ハード整備だけ
ではなくソフト面**での
連携も大切。

人と人が交流

することで新たな価値を生み出す、
市民が集まりやすい
オープンな場所であることが必要。

**駅には商業施設的
なものを集積し、
庁舎は人と人の
交流の場**としての

役割を担うものとし、全体の景観の中で
一体的に繋がっているイメージが
良いのではないかな。

市民活動の結節点
としての役割も重要。

人の往来を生み出すためには、
従来の普通の「箱」ではなく、
様々な要素が複合化
したものであることが考えられる。

庁舎には核となるような
ものを残しつつ

機能を分散するとともに、
自然を残していく
という在り方も考えられる。

アンケート 調査等からの 意見

駅周辺に全てを網羅する一
極集中ではなく、行政機関
を中心に、ここから色々な
情報等を発信する「発信基
地」(コールセンター的)と
し、それ以外は、市全域がバ
ランス良い配置(色々な施
設、店など)を考えてもらい
たい。

他県にて、家賃収入がある
市役所があると、事務
所や店舗等、面白いと思う。
高さ制限の件も含めて、又、
外観よりも使いやすい市役
所になるといいと思う。

みるひい5 クイズ5

巻狩まつりのモチーフとなった
「那須野巻狩」とはいつの
時代にあった?

- ①平安時代 ②鎌倉時代 ③江戸時代

ヒント:1193年と伝えられています。

プロジェクト⑥ 時代に選ばれるまち



プロジェクトの目的

首都機能の地方分散、国のバックアップ機能の受け皿の一候補地など、より大局的な見地から、栃木県北地域など広域的な拠点となるまちをつくる。

プロジェクトの施策の方向

首都機能の地方分散等に向けた機運の醸成及び受け皿となる魅力の創出

広域圏における道路網の整備等、自治体間の連携強化
持続可能性の追求、環境政策等を通じた地域課題の解決

プロジェクトで描く 30年後の 未来のイメージ

「首都圏とのアクセスの容易性」「災害リスクに対する高い安全性」といった那須塩原市が有する地域の優位性などから、市内への首都機能の一部移転が実現。

玄関口でもある那須塩原駅周辺を中心に、インフラストラクチャー等の整備とともに、気候変動への対策等、那須塩原市が全国に誇る取組を生かしたまちづくりが進んでいる。

本市を中心とする広域圏の連携強化や新たな広域圏の形成などが図られるとともに、圏域内のヒトやモノの交流・流通がより活発に行われるようになり、広域圏内における更なる一体感が創出されている。

首都機能の一部移転に伴う関係者の移住や定住が進み、人口減少に歯止めがかかるとともに、移転機関への通勤者により那須塩原駅の利用者数も増加し、それらをターゲットとした新たな「賑わい」や「活気」が駅周辺に生まれている。



プロジェクトへの提言やアイデア

交通の要衝として、
那須塩原市のみならず
**栃木県北地域に
おける交通網の拠点
(ハブエリア)としてのまちづくりが
求められる。**

自治体間の広域的な連携強化を
進める那須塩原市にとって、
**駅周辺はそれら
広域圏の拠点
たるに相応しい環境を
整備する必要がある。**

気候変動対策等、那須塩原市が
国や他の自治体に先駆けた取組を
実践しており、こうした
**環境政策を通じて
地域課題を解決し、
市民が安心して幸せに暮らせる
持続可能なまちの
構築を見据える必要がある。**

首都機能の東京一極集中の
リスクが顕在化する中、本市は
**「災害に対する安全性」
「東京圏へのアクセスの容易性」、**
また「国会等移転先の
候補地とされた過去の経緯」等を
有している。

中央省庁をはじめとする
**首都機能の
地方分散の受け皿、
バックアップ地としての
役割を果たすポテンシャルを
秘めている。**

有識者会議
からの提言

アンケート 調査等からの 意見

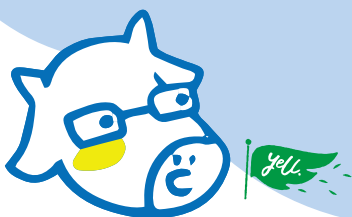
ゼロカーボンシティへの取組を、行政だけでなく、アートや、いろんな分野との協力や繋がり、市民にとっても責任ある行動を堅苦しくないイメージで広め、実践していけるような街になって欲しい。

観光を考えると那須町との協力の上で進める事も必要。

今後の地球環境の変化(災害が多くなる等)やCO2ゼロ宣言など、他にない新しい視点でのまちづくりに対応できるエリアとして期待したい。そういう所には、人々は集まりコミュニティが築かれていくのでは。

中央省庁を誘致して欲しい。一つでも誘致されれば様相は一変するだろう。

那須塩原市は地球環境保全に貢献できる再生可能エネルギー施設やCO2を還元する豊かな自然環境を保有しているので、これをアピールするような施設が有っても良い。



みるひい クイズ6



那須塩原市はいつまでにCO2排出量実質ゼロを目指すことを宣言した?

- ①2030 ②2050 ③2100

ヒント:2020年10月には国も宣言しているよ!

プロジェクト⑦ 人と共に成長するまち



プロジェクトの目的

様々な市民参画等のプロセスを通じて得られた人財が、那須塩原駅周辺のまちづくりの担い手として継続的に関わるとともに、市民がまちづくりへの関心を失うことなく継続的に担い手として参画する環境を整え、より高い次元で市民など多様な担い手との協働が実践されるまちをつくる。

プロジェクトの施策の方向

市民参画プロセスへの理解の深化と機運の醸成

市民参画プロセスの仕組みづくりや担い手づくり

市民、自治会、NPO法人、事業者等多様な担い手との連携強化

プロジェクトで描く 30年後の 未来のイメージ

市民だけではなく、自治会や市民団体、民間企業等まちづくりに関心のある様々な担い手が、那須塩原駅周辺のまちづくりに参画している。

まちづくりの多様な担い手により、『那須塩原市版まちづくりシンクタンク』が構築されている。

まちづくりに関するネットワークが広がり、多種・多様な「知見」と「視点」でまちづくりが進められている。

民間活力の導入など、民間企業との連携によるまちづくりが積極的に行われるようになってきている。

市民の中に「市政への市民参画」の素地が根付き、まちづくりの担い手が継続的に生まれている。



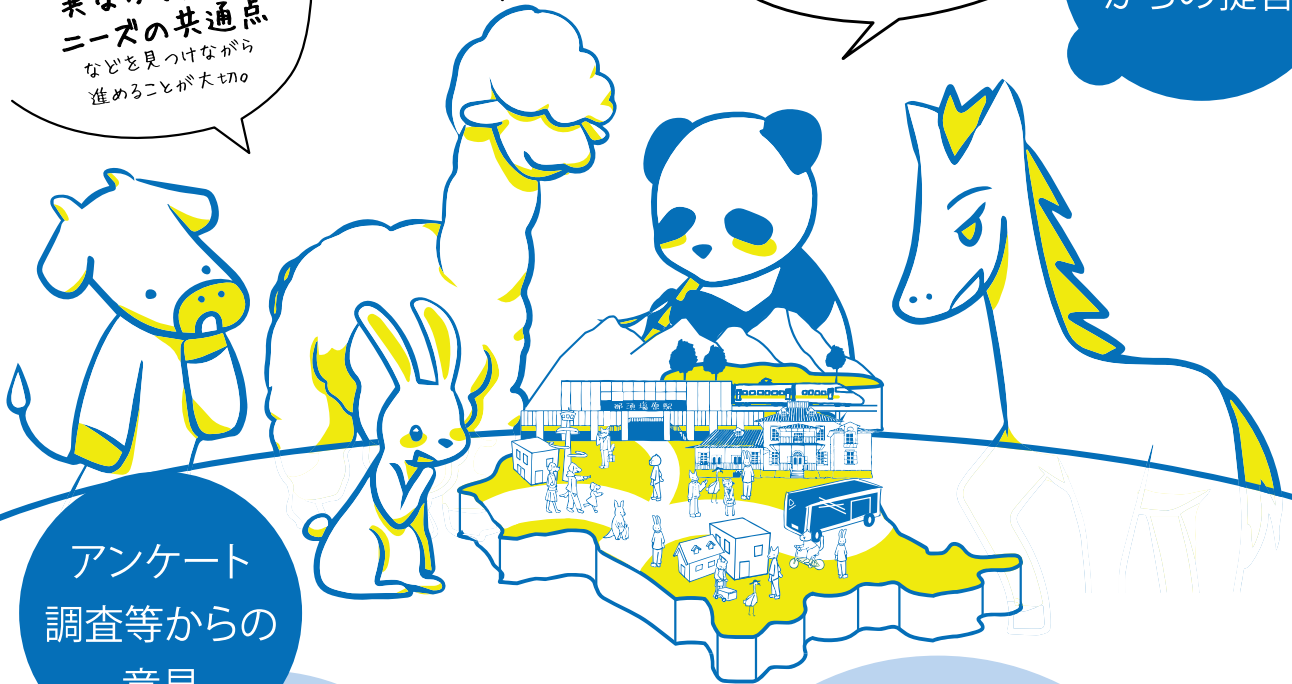
プロジェクトへの提言やアイデア

まちづくりへのニーズは
人それぞれの
異なって見える
ニーズの共通点
などを見つけながら
進めることが大切。

まちづくりに関心のある
多種・多様な人材や
担い手との出会い
により、まちづくりの手法等が広がる。

行政だけではなく、
様々な担い手と連携し、
まちづくりに対する想い
を出来る限りすくい、
生かしていくことが肝要である。

有識者会議
からの提言



アンケート 調査等からの 意見

多くの人が意見を言える場
が欲しい。

まちづくりについて皆が話
し合って、身近な事を感じ楽
しめたら良いかも。

都会の街並みを目指すので
はなく、市民全体で考え、一
体感のある街を作りたい。独
自性があり活気があれば、
人はたくさん来ると思
います。



まちづくりを担うのはこれ
から大人になる子どもた
ち。地区にある高校から代
表を募り、そういった計画を
定期的かつ、何年間にわた
って行っていくのは大切
(必要)だと思う。

発揮出来ていない魅力的
な要素や人材がたくさんあ
ると思うので、そういった
人々が集い、市に貢献でき
る企画や機会をどんどん計
画して頂きたいと思います。

若者の人材育成とアイディ
アを取り入れた環境作り。

もっと多くの人が意見を言
えて、まちづくりに参加でき
る場、イベントがあればと思
う。人と人との関わりがも
っともっとできる施設などが
欲しい。



みるひい7 クイズ7



那須塩原市のブランドメッセージ

「エールなすしおばら
～夢が動き出すまち～」

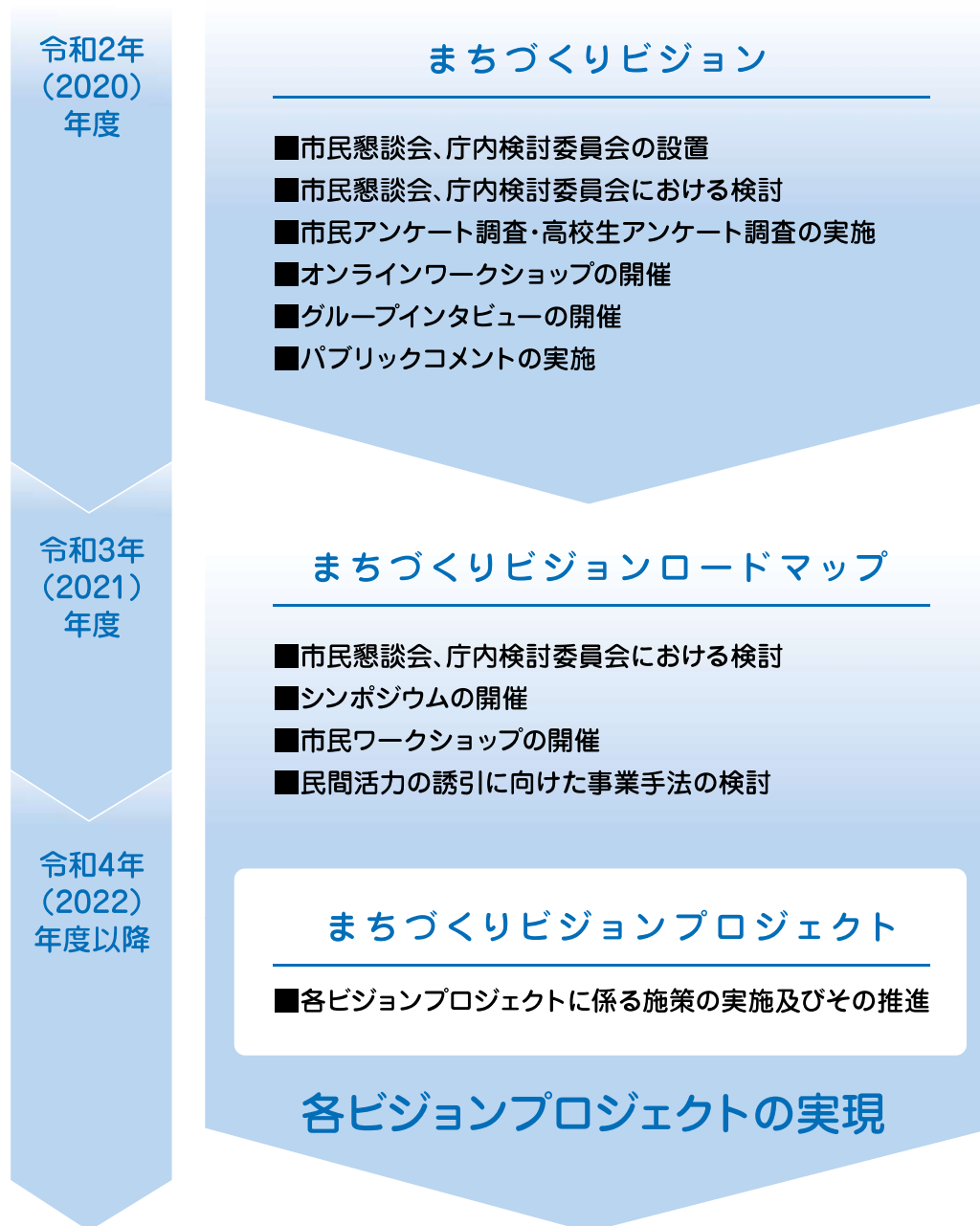


ロゴマークはこの冊子の中に
何個出てくるでしょうか？

- ①6個 ②14個 ③25個

5-1 スケジュール

那須塩原駅周辺まちづくりビジョンを具現化していくための行程を次のとおり示します。



住む・来る人が共に拓き、育む栃木県北の拠点
の実現

5-2 ビジョンの具体化に向けた方向性

ビジョンを具体化するための主な方向性・方策を次のとおりとし、ビジョンに掲げた将来像の実現に向けて、着実に取り組んでいきます。

[1] 民間活力の積極的な導入及び導入を促す新たな魅力の創出

- PPP※(Public Private Partnership)等の活用を積極的に検討するとともに、駅周辺への民間事業者の進出支援の方策を検討する。
- 駅周辺の道路網等、都市基盤の整備を計画的に進め、駅周辺及び駅周辺エリアへのアクセス性の向上に努める。
- 景観等に配慮しつつ、建築物の高さ制限などに関し、その有効性や緩和の必要性等について検討する。

[2] 市民との協働によるまちづくりの更なる推進

- 地域の継続的な発展、まちづくりの維持のため、地元住民を中心とした市民との協働によるまちづくりを担う組織づくりを支援する。
- 継続的な協働のまちづくりの素地の醸成、担い手の創出に努める。

[3] 多種多様な事業手法の検討と積極的な活用

- 行政効率、財政負担の軽減などを念頭に、事業の計画・実施に当たっては様々な角度から事業手法を検討するとともに、多様な視点をもって財源の確保に努める。
- 所管が異なる複数の事業が同時に展開されるような場合、円滑な事業推進が図られるよう必要に応じて協議・調整の場を設ける。

※ PPP(Public Private Partnership)

官民連携。民間事業者の資金やノウハウを活用して社会資本を整備し、公共サービスの充実を進めていく手法。